



140  
2026夏

# にってん フォーラム

高田馬場<sup>いち にーさん しっ!</sup>1-23-4 ————— 長岡英司

2025年度事業報告 ————— 立花明彦

「建前と本音」田中徹二さんを偲んで ————— 星川安之

僕にとって、田中先生って…… ————— 加納 洋

シリーズ 点字で生きる～点字制定200年～⑥ —————

点と音からつながった縁と感謝 ————— 澤村祐司

新任幹部職員をご紹介します

公益財団法人JKA補助事業完了のお知らせ

新しい顔

川崎市視覚障害者情報文化センターだより ————— 田村颯人

私と日点 ————— 田中勝代

現場の小窓 ————— 総務グループ

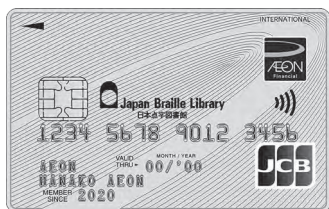
ご存じですか?こんな商品

チャリティコンサートのご案内



ISSN 0916-8877

# 日本点字図書館カード 会員募集中



入会金・年会費無料

あんしんのクレジットカード  
盗難保障

※カード発行には所定の審査がございます。

カードご利用代金の一部を

社会福祉法人日本点字図書館へ寄付いたします。

寄付金は、点字・録音図書の製作・貸出に役立てられます。

(※カード会員さまのご負担はございません)

みなさまがカード会員となり、ご利用いただくことで

視覚障がい者の方々を応援できるカードです。

その他詳細・  
お申込みはこちら

日本点字図書館カード

検索



■カードに関するお問い合わせはイオンカードコールセンターまで

電話番号: **0570-071-090** (ナビダイヤル / 有料)

**043-296-6200** (有料)

受付時間: **9時～18時** (年中無休)

お電話番号をよくお確かめのうえ、お間違えのないようご注意ください。

**AEON CARD**

## やはりラジオはありがたい

ながおか ひでし  
理事長 長岡 英司

学校の夏休みが始まりました。以前は朝6時半になると、近隣の校庭や公園からラジオ体操の声と子供たちの賑わいが聴こえてきたものでした。しかし近年は社会の様々な変化から、夏休みのラジオ体操会を行わない地域が増えたようです。それにより、子供たちがラジオ放送というものを身近にする少ない機会がさらに減ってしまったのは、ラジオを大切に思う者にはとても残念です。

NHKは、AMのラジオ第2放送をこの3月29日をもって終了し、1931（昭和6）年からの歴史に終止符を打ちました。第2放送で以前放送されていた小学生向けの教育番組を、盲学校の教室で楽しく聴いたのを、私は懐かしく思い出します。この第2放送では、1964（昭和39）年から、視覚障害者向けの番組が続いていました。「盲人の時間」という名称で始まったこの番組は数回の改題を経ましたが、視覚障害者や関係者に有益な情報を届け続けてきました。第2放送の終了を知り、この番組がなくなってしまうことをいち早く心配したのが、本年3月に逝去した当館会長の<sup>たなかてつじ</sup>田中徹二でした。田中は、番組の放送開始当時から協力者として制作に深く関わり、充実と発展に大きく貢献しました。番組の意義を最もよく知る立場ゆえ存続の必要性を強く感じ、自らそのための働きかけを熱心に行ったのでした。尽力の甲斐あってFM放送での番組の存続が決まり、田中に正式に伝えられたのは、今年に入ってからでした。それを知った田中は大いに安心し喜びを露わにしていました。しかし残念なことに、4月からのFMでのこの番組を、田中本人が聴くことはありませんでした。

こうした専門番組はもちろん、ラジオ放送は視覚障害者にとって今でも有効な情報入手手段です。すべてを音声で的確に伝えてくれるのですから、本当にありがたい存在です。ラジオ放送の有効性が社会全体でもっと見直され、有用な情報媒体として永く在り続けてほしいものです。

# 2025年度事業報告

たちばな あけひこ  
館長 立花 明彦

本年3月、当法人の会長職にあった田中徹二が逝去しました。当館85年の歴史において、前期40年余りの後半部を知る者がまた一人世を去りました。

田中は失明間もない1954年ころ、その将来について当館の創立者・本間ほんま一夫かずおにも相談し、有用なアドバイスを心得て進路を定めたと言います。1955年ころからは当館の利用者となり、本間との親交の中で、1979年からは評議員に、1990年には理事に就任しますが、請われて1991年、2代目館長として招き入れられました。

館長、理事長を歴任する中で田中は、点字・録音図書の製作におけるデジタル化を推進するとともに、アジア盲人図書館協力、自立支援課の開設など、新たな事業も展開しました。田中の旅立ちは、当法人の一時代の終わりを告げると同時に、その運営が次の世代の者に委ねられたことを示すものとも言えます。

2025年度の事業は、田中が見守った最後の年度になります。事業計画に挙げた事項は概ね達成できました。決算も前年度に続き赤字を回避できて安堵しています。とはいえ、財源については今日の社会情勢等を踏まえると、大いなる不安材料が認められるだけにしっかりとした策を講じる必要があります。

うれしい受賞もありました。10月、ゲーミング図書館アワード実行委員会主催の「ゲーミング図書館アワード2025 優秀賞」が当館に贈られました。1984年から始めた視覚障害者のための定期的なゲーム会の実績が評価されたものです。

重点項目に挙げた事業については、紙面の都合上、三つについてご報告します。

## 1. 第2期読書バリアフリー基本計画での実証調査への積極的協力

国が策定した第2期読書バリアフリー基本計画が2025年4月から始動しました。今回の実施期間で国は、製作者への電磁的記録の提供に関する課題や具体的方法について、主導して実証調査を実施することになっています。当館はその調査での協力館の一つですが、出版社から電子データの提供がなされること

は、点字・デージー図書等の製作やプライベートサービスにおいて効率化をもたらし、製作期間の短縮が図られる可能性があり、期待を寄せているところです。

実証実験が始動したのは8月。当館では期間中、124件のテキストデータを請求しましたが、データ提供を受けられたのは44件(35.5%)に留まりました。出版社の理解がなかなか得られず残念と言わざるを得ません。2026年度には参加館を増やして実験を継続することになっており、当館は引き続き協力すると同時に、指定管理を担う川崎市視覚障害者情報文化センターも参加します。

## 2. 図書製作等における生成 AI 活用の可能性についての実証的検討

ChatGPTの有料プランを契約し、点字製作課・録音製作課に導入しました。図表や画像の説明文作成、語句の読み調査等のほか、特定の作業を自動化するツールを作成させるなど、幅広い活用がみられました。得られた知見は、「製作効率化検討ワーキンググループ」を立ち上げ、共有化に努めました。またChatGPT以外にも競合するAIサービスや、新しいOCR・音声化ツール等を随時比較検証し、日進月歩の技術動向をフォローしながら、業務の効率化を進めています。

## 3. 本間一夫生誕 110 年記念事業の実施

2025年は創立者・本間一夫生誕110年に当たると同時に、ルイ・ブライユによる6点式点字考案200年でした。点字により道が開かれ、生かされた本間と当館について、これまで収集した資料を基に未発表の事項をまとめ、記念誌を作成し、当館の広報に活用することを計画しました。また点字文化を守り、創造し、継承する役割を担う図書館として、広報誌『にってんフォーラム』でも関連する短期連載を組みました。

『にってんフォーラム』では、「生誕110年記念特別連載 創立者本間一夫の生涯」を掲載中で、次号(2026年10月)で連載を了する予定です。また六点式点字制定200年を記念しては同誌に「点字で生きる」を連載し、現役の点字使用者に執筆いただきました。なお、記念誌は諸般の事情により、作業を継続しているところです。

当館の事業は、利用者、ボランティア、寄付者、助成団体の皆様のご理解とご支援が大きな助けとなって展開されています。改めて深く感謝いたしますとともに、引き続きのお力添えをお願い申し上げます。

# 「建前と本音」 田中徹二さんを偲んで

公益財団法人共用品推進機構 ほしかわ やすゆき  
星川 安之

本音と建前を、普通の人はもっている。あらゆる場面で、2つを使い分けて生活している。自分もそうだった。建前で人と接していると、オブラートに包んだ話となり、だいたいの場合、生産的でないがゆえに、疲れ、そして意図しない方向にことが進む。そんな建前生活は無意味だと教えてくれたのが田中徹二さんだった。

私は1980年4月、障害のある子どもたちが遊べる玩具開発を希望しトミー工業（現在のタカラトミー）に入社、同年9月に新設され配属された部署は、希望叶った部署だった。障害児の玩具開発に必要なことは2つの知識。おもちゃに関しての知識は社内の先輩たちに聞いたが、2つ目の障害に関してはそうはいかなかった。インターネットが普及していなかった当時は、専門機関を多くの書籍・機関誌等の中から探し出し、電話し訪問。既存のおもちゃに関してそれぞれの障害からみた話を聴き続けた。1年目に会った専門家、障害のある子どもたちは1,000人を超えた。そんな中の一つが日本点字図書館（日点）の用具部だった。

用具部での話が終わった5時過ぎに、館長室で本間一夫先生を紹介された。館長に「盲児のおもちゃができること楽しみにしていますよ」と言われたその部屋のソファに、ちょこんとしかも堂々と座っていたのが、当時東京都心身障害者福祉センターに勤務されていた田中徹二さんだった。その時、田中さんとはどのような会話を交わしたのかは思い出せないが、5時過ぎに行くと必ず、堂々と田中さんは館長室のソファに座っていた。

次に田中さんと会ったのは、池袋駅の地下通路だった。雑踏の中で「コツツ、コツツ」と大きな音、何事かと音源の方向に目をやると、「私はここにいるよ」と言わんばかりに白杖を前方から下に振り下ろし大きなその音を立て続けている田中さんがいた。その後も何回も「コツツ、コツツ」を聞き、その度に田中さんがいた。

1991年4月、障害の有無、年齢に関わりなく共に使えるモノ（共用品）、サービス（共用サービス）を普及するためのプロジェクト、「E&Cプロジェクト」が発足、旧日点3階の集会室に田中さんや私も含めた20名が集まった。田中さんはセンターを退職し、日点の館長として着任していた。夕方5時からではなく、朝からの堂々の勤務になった時期である。

田中さんと出会って46年、とくに1991年4月以降の35年間は、頻繁に電話のやりとりをした。正確ではないが、相談は私からの8割強、2割弱は田中さんからだった。田中さんからのアドバイスには曖昧さがなく、いつも「右か左」、「黒か白」だった。田中さんと頻繁に会ったり電話したりしているうちに、社会に出て自分は建前と本音を使い分け、オブラートに包んで答えを先送りしていたことを、田中さんに自然と諭されていった。

9年間続けてきた市民団体E&Cプロジェクトの方向性を相談した時には、「事業を継続するためには財団にするのが良い」と。トミーで視覚に障害のある社員を正社員として雇用したい、の相談には「それは、とても良い。<sup>たかはしれいこ</sup>高橋玲子さんが適任」とこれも即答。目の不自由な人だけが応募できるアイディアコンテストの実施の相談には「そりゃいいね！ 盲学校の教員を歴任し文部科学省の専門官をされている青木隆一さん<sup>あおきりゅういち</sup>に参加してもらおうと良い」。これにも即答だった。

あらためてこの原稿を書くにあたり、なぜ田中さんは「建前」と「オブラート」をもちあわせなかったのかを考えてみた。

1つ目は、年齢、社会的地位、障害の有無に関わりなく、誰に対しても心の上下関係を作らず、しかも相手の思考と行動に強い関心をもちながら、接していたこと。

2つ目は、情報障害である視覚障害者が、いかにしたら必要な時に必要な情報が入手できるかを自ら実践して追求していたこと。

3つ目は、視覚障害に限らず、日本に限らず、障害の有無に関わらず誰もが暮らしやすい社会になればと願い、人と人をつなげ、自らも走り続けていたこと。

そんな目標の実現には、「建前」と「オブラート」は、ブレーキになると言葉と行動で示してくれた田中さんの周りには、いつも本音でオブラートなしの大勢の人が集まり、田中さんと共に、目標に向かっていった。しかも、みんな笑顔で。



# 僕にとって、田中先生って……

ミュージシャン かのう よう  
加納 洋

僕が先天性弱視から全盲になったのは1973年19歳の時でした。1978年に音楽活動の拠点を生まれ故郷の岐阜県中津川から東京に移しました。それまで点字も歩行も独学でしたが、東京で一人暮らしをして音楽の仕事を続けるには、きちんと訓練を受けたほうがよいと思い、1979年に東京都心身障害者福祉センターを訪ねました。

そこで点字指導をされていたのが田中徹二先生でした。僕は小学校も中学校も普通校に通い、YMCA（キリスト教青年会）で英語の勉強もしながら、10代からプロとして音楽活動をしていました。当時の友達も音楽仲間も皆晴眼者で、全盲になってからも視覚障害者の方と接する機会がありませんでした。その僕が、初めて会った僕以外の視覚障害者、それが田中先生でした。初めて田中先生を紹介された時、僕は先生にどう接してよいのかわからず、きちんと挨拶することもできませんでした。そんな僕に、先生は気さくに声をかけてくれ、雑談をしているうちに、すぐに打ち解けました。

田中先生のクラスでは40代、50代の中途失明のおじさんたちが点字を勉強していて、僕はその雰囲気すぐに溶け込みました。センターには3ヶ月ほど入所し、歩行や生活訓練、点字を学びました。

ある時、田中先生に「点字図書館で本を借りて読む練習をしろ」と言われ、夏目漱石の小説を借りました。すると6冊もの分厚い点字本が届き、「手に取っただけでウンザリして、とても読む気になれません」と先生に言うと、「じゃあポルノ小説ならどうだ。読む気になるだろう？」と言われ、「この先生はなかなか話がわかるな」と親しみが湧き、早速その手の小説を借りました。「その本はサーモフォームで打たれているから読みにくい。ベビーパウダーをつけながら読むと読みやすいぞ」とアドバイスされ、「さては先生もこの手の本を読んでいるんだな」と、ますます田中先生に親近感を持つようになりました。

またある時、生活訓練の授業で鶏の唐揚げを作ることになり、それを田中先



生に話すと、「酒のつまみにするからクラスみんなに分けられるようにたくさん作ってくれ」と言われ、肉屋で1kg以上の鶏肉を買い、何時間もかけて調理したことも懐かしい思い出です。ここだけの話ですが、センターは禁酒です。なのに田中先生は鶏の唐揚げを酒のつまみにするつもり。生活訓練の先生から預かったお金はぜんぶ鶏肉に変わり、その先生からきつくお叱りを受けました。これは田中先生の責任じゃないでしょうかね（笑）。

田中先生はいつもランチを食べません。「なぜお昼ご飯を食べないんですか？」と聞くと、「夕方から飲む酒がまずくなるから」とおっしゃる。田中先生に誘われてお酒を飲みに行く場所は、ほとんどが点字図書館がある高田馬場の居酒屋。僕が酒飲みになったのも田中先生のせいですかね（笑）。

田中先生がランチを食べずに昼休みを過ごすもう一つの理由は、株式市場のラジオを聞くためでした。かなり真剣に耳を傾けていましたね。相当儲けていたかな？

田中先生が多くの視覚障害者のために長年尽力されてきたことは、皆さんもよくご存知だと思います。僕が25歳で自身のバンドを結成し、都内のライブハウスで活動を始めた時、最初のライブにいち早く駆けつけて下さったのも田中先生でした。以来、僕のコンサートには欠かさず足を運んで下さいました。3年前には僕の生まれ故郷、岐阜県中津川でのライブにもわざわざ来て下さいました（加納洋の追っかけ？）。ニューヨークでも3度ほどお会いしました。そして、今年2026年1月の僕の東京でのライブで言葉を交わしたのが最後になってしまいました。

田中先生は60年間、NHKラジオで視覚障害者のための番組制作に携わっておられました、その番組にも僕を何度も出演させて下さいました。

45年もの間、僕がニューヨークを拠点に音楽活動を続けてこられたのは、1982年に田中先生が紹介して下さいた「ミスタードーナツ障害者リーダー米国留学派遣」の奨学金で留学できたおかげだと思います。

半世紀近く、僕を公私にわたって応援し続けて下さったかけがえのない人生の恩人がこの世を去られ、帰国のたびに一緒にいたおいしいお酒や、食事、楽しい会話の時間を失ったことはとても悲しく、寂しく、先生と過ごした様々な場面がよみがえってきます。これからも田中先生が僕に残して下さいた多くの思い出と感謝の気持ちを胸に人生を歩んでいきます。

田中先生、本当にありがとうございました。

## シリーズ 点字で生きる～点字制定200年～⑥

### 点と音からつながった縁と感謝

生田流箏曲家 澤村 祐司

初めて点字に触れたのは小学1年生のときです。「アメ アメ フレフレ……」から始まり、少しずつ点字の読み方や書き方を覚えていく時間は刺激的で、楽しかったのを覚えています。けれども工作をしたりして遊ぶのが一番好きだった私は、勉強が大嫌いでした。そのため、点字の読み書きは友達に比べて速ではなく、結局それが後になっても、そして今になっても、「あまり読めない（読まない）、読むのが遅い」ままになっています。

そんな私ですが、点字は欠かすことのできない「生きるすべ」です。というのも、今では通常の文章の読み書きこそ、音声でスマートフォンやパソコンを使うことが増えているものの、楽譜だけは点字に頼っているからです。

音楽は、小学3年生ころまでは通知表で「がんばりましょう」のままでした。しかし、4年生で習い始めたピアノの先生が長澤晴浩さんで、楽譜を読むだけでなく、書くことにも重点を置いてご指導くださいました。これが契機となり、後に箏・三絃の世界を学ぶこととなっても、もちろんスムーズにいかないことの方が多かったのですが、それでも「この楽器を辞めたら、きっと私は生きるすべがないだろう」という思いもあり、しがみつくように楽譜を読みました。楽譜がない曲は、自分で耳コピーをしながら点字譜を作り出しました。

高校を卒業したところから、少しずつ偉大な先輩方とのご縁もいただくようになり、楽譜や音源を分けていただいたり、参考書まで頂戴したりしました。それらは、手放せない大切な感謝の宝物となっています。

普通の文字の読み書きがあまり得意ではない私が、なぜ点字楽譜にだけはしがみつিকけるのか。それは、生きるすべであると同時に、「次の世代に確かな備忘録を残したい」との思いがあるからです。最近では、先天の視覚障害者でも、点字楽譜を学ぶ意欲や知識を持ち合わせない方が多いと聞きます。点字楽譜利用連絡会の会員としての一步を今一度新たにし、楽譜を読める・書ける喜びを、一人でも多くの後輩に残していけるような存在でありたいと思います。

# 新任幹部職員をご紹介します

今年度より就任した、当館事業の中心を担う新任幹部職員を紹介いたします。

## 総務課長 すね や ひろゆき 強矢寛之

2003 年に入職し、図書情報課で3年間貸出業務を担当した期間を除き、一貫して総務課で勤務してまいりました。直近の18年間は会計業務を中心に担当し、あわせて館内のシステム管理にも携わってまいりました。

総務課は、各部署が利用者の皆様と向き合う仕事に専念できるよう、その土台を支える「縁の下の力持ち」でありたいと考えております。労務、経理、施設管理など業務の範囲は幅広く、当館の運営全体を支える役割を担っています。長年事務に携わる中で、紙や手作業に頼る業務の負担や、部署をまたいだ情報共有の難しさを、かねてより課題として感じてまいりました。

今後は、これまでの経験を活かし、DXの推進をはじめとした業務改善を通じて、こうした負担を少しでも軽減するとともに、現場がより力を発揮できる環境づくりに取り組んでまいります。当館の歴史と理念を大切にしながら、時代に即した新しい仕組みづくりに努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



## 公益財団法人 JKA 補助事業完了のお知らせ

この度、2025 年度の競輪の補助を受けて、以下の事業を完了いたしました。本事業により、視覚障害者が就業や充実した日常生活を営むために役立つ、独自の「聴く雑誌」を製作、配布いたしました。

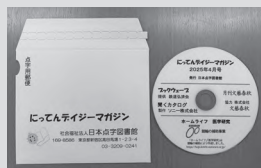
ここにご報告を申し上げるとともに、謹んで感謝の意を表します。

**事業名** 「2025 年度障がいのある人が幸せに暮らせる社会を創る活動補助事業」  
**事業内容** 視覚障害者用月刊 CD 雑誌『医学研究』・『ホームライフ』の製作及び配布

**補助金額** 3,039,000 円

**実施場所** 東京都新宿区高田馬場 1 丁目 23 番 4 号  
社会福祉法人日本点字図書館

**完了年月日** 2026 年 3 月 4 日



社会福祉法人日本点字図書館  
理事長 長岡 英司

## 新しい顔

今春、当館に6名の新規職員が加わりました。  
私たちの新しい仲間を皆様に紹介いたします。

おかだ なみ  
岡田 波（用具事業課）

以前はスーパーマーケットの惣菜部で働いておりましたが、偶然 SNS 上で当館の採用のお知らせを目にし、未経験ながら思い切って応募いたしました。ご縁がありこの春から用具事業課でお世話になっております。用具を通じて皆様の生活を彩る些細なお手伝いができるよう、私自身も勉強をしたり、先輩方に教えていただいたりしながら日々業務にあたっております。用具ショップに立ち寄られた際やお電話などで担当させていただくこともあるかと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

たきざわ ゆう か  
滝澤 裕佳（用具事業課）

「母ちゃん、点字器を買って！」 娘が同じ和太鼓の会に所属する篠笛の名手に手紙を書きたいと言ったことが、わたしと日本点字図書館を繋げるきっかけとなりました。今から12年前のことになります。

訪ねた日は土曜日だったため、館内は利用者の方々の要望に応えるスタッフの皆さんの熱気に満ちていて、こんなにも利用者の生活に密接した図書館があるのだと感動を覚え、いつか復職する際はこの図書館に身を置きたいと思ったのです。

ご縁があり入職させていただくこのタイミングに今一度、初心に立ち戻り、日々の業務にあたっていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

てづか ゆう  
手塚 優（用具事業課）

今まで福祉や点字に関わる仕事に就いておりませんでしたが、持病の合併症を意識し始めたことから点字に関心を持ち、当館に出会いました。趣味は散歩で、路地や坂道に入るだけでワクワクします。これまでの最高記録は一日に45,000歩です。これからの季節は水分補給をこまめにして、夏の暑さにも負けず楽しみたいです。毎日わからないことに直面していますが、優しい先輩方がその都度教えてください。

ます。用具にいらしたお客様の新しい発見やワクワクにお応え出来るような仕事を心掛け、日々精進して参ります。

ひらい

#### 平井あやの（総務課）

前職は地方公務員をしておりましたが、40歳の節目の年に「そうだ、無職になろう！」と思い立ち退職。幸いなことに無職の才能があったためのびのびと無職生活を謳歌していたところ、当館の採用募集が目に入りました。当館については前職の業務の中で関わりがあり、「なぜか図書館という名の日常生活用具販売店」だと思い込んでいたのですが、見学を通じて当館が担う幅広い業務を知り、働いてみたいと感じて応募しました。玄関に一番近い席に座っておりますので、当館お立ち寄りの際はぜひお声掛けください。

ふじた ゆ か

#### 藤田祐香（図書情報課）

出身は兵庫で、3月までは大阪で働いておりました。前職は、国民健康保険に関する事務の仕事をしておりました。

趣味は、神社仏閣巡りと舞台観劇です。神社仏閣特有の優美で厳かな雰囲気や、舞台ならではの一発勝負の緊張感を味わえるところが好きです。好きな神社は、奈良にある大神神社おおみわです。舞台に関しては、宝塚歌劇が好きです。

少しでも早く業務に慣れ、皆様のお役に立てるよう尽力していきたい所存でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

やましたしょういちろう

#### 山下翔一郎（点字製作課）

点字製作課で印刷・製本業務を担当しています。以前は公共図書館の障害者サービス室で働いていました。そこで点訳奉仕の方から点字を教わり、点訳・録音図書に触れ、全盲の利用者さんとも親しくなったことが、日本点字図書館とのご縁を結ぶきっかけとなりました。まだまだ不慣れではありますが、優しい先輩や同僚から多くのことを学んでいる毎日です。点字図書を必要とする方々のお役に立てるよう、目の前の仕事を丁寧に取り組んでまいります。

どうぞよろしくお願いいたします。

川崎市視覚障害者情報文化センターだより

## AI 研修を通して学んだこと

利用者支援グループ たむら はやと 田村 颯人

5月7日より全8回のAI研修が始まった。当センターでは、近年急成長を遂げている生成AIを業務に役立てるために、まずは「AIがどのようなものか」を学ぶため、株式会社想隆社代表取締役・青山学院大学客員教授の山本やまもと幸太郎氏を講師に招いた。

研修を受ける前は、「質問を入力すれば答えが返ってきて、いろいろな業務を効率化できる便利なもの」という印象を持っていた。しかし、研修を通して学ぶ中で、AIとは単に便利なツールというわけではなく、利用する側が正しく理解したうえで活用することが求められるものなのだと思うようになった。

特に印象に残ったのは、AIが必ずしも正確な情報を出力するわけではないという点である。AIはどんな質問に対しても、自然な文章で回答をするので答えがあっているように見えるが、誤った情報や事実と異なる内容を回答している場合がある。そのため、AIが作成した文章や回答をそのまま信用するのではなく、出典や事実関係を確認しながら使う必要があると学んだ。業務で使用する際には、これまで以上に情報の正確性を確かめる姿勢が重要になると感じている。また、より良い回答を引き出すためには、こちらからの指示の出し方や条件の伝え方が大きく影響することも学んだ。単に質問を投げかけるだけでなく、必要な情報をまとめたうえで、どのように指示を出せば求める回答に近づくのかを考える必要がある。

今後は、研修内で、AIをどのような業務で取り入れていくのか実現性を試していく。AIの特性を理解したうえで、業務の効率化へつなげていきたい。

今年度より、本誌138号にて副センター長就任のご挨拶をした稲垣がセンター長に就任しました。日本点字図書館は、指定管理者として、川崎市視覚障害者情報文化センターを運営しています。



## 私と日点

.....  
点訳ボランティア たなか かつよ 田中 勝代

早朝ウォーキングは長年の私の習慣です。

最近は夜明けも早くお天気が良いと美しい朝焼けの中を歩いています。そして点訳もすっかり日常にとけこんでおります。

最初は点字盤と点筆で1点1点から始めました。それがカニタイプ（点字タイプライター）になり6点同時に打つことが出来た時の感激は忘れません。そしてパソコンです。知り合いに私製のパソコンを作ってもらい、たどたどしく入力した時の緊張感！誤りを楽に正せるのが何より有難く思いました。

点訳も多く致しましたが一番印象に残っております作品は『モンテ・クリスト伯』です。文庫本7冊を1年近くかけて点訳しました。子供の頃に夢中で読んだ本でもあり、完成した時は高い山に登り切った感が致したものです。

また読者の方からの点字のお手紙を図書館から転送していただいたことも嬉しいことでした。

日常生活には何も問題はありますが私は左眼が生まれつきほとんど見えません。点字に係わりたいと思いましたがそのことが多少関係あるかもしれませんが、本が大好きということが一番のきっかけかも知れません。

点訳では多くの事を勉強させて頂きましたし、自身の読書の幅も広がりました。ボランティアとは言うものの自分のために続けてきたように思います。

人生100年と言われる近頃です。今では点訳は私の「仕事」のように感じます。これから何年続けられますか、卒業される方々のお名前を拝見しますと私も引き際を考える昨今ですが、体調を維持しつつもう少し続けたいと思っています。

\*田中勝代様の当館での点訳歴は、32年におよびます。（編集部より）



## 「ようこそ日点へ! ～見学対応の現場から～」

総務課 総務グループ

皆さまと日本点字図書館との出会いは、どのようなきっかけだったでしょうか。当館では、事業内容に関心のあるかたへ向けて事前予約制の館内見学を実施しています。水曜日と金曜日に説明担当の職員がついて1時間程で巡るツアーです。子どもから大人まで、企業・自治体のかた、ボランティアや福祉関係者など、昨年度は約740名のかたが訪れました。公共図書館とは違い自由に出入りできない書庫をはじめ、“本を製作して貸し出す”“用具販売や生活訓練でくらしを支援する”現場をご案内しています。

この見学を支えるのが、私たち総務課の仕事です。見学希望を受けたら、日程調整や案内準備、当日の受け入れ、関係部署との連絡調整などを行います。普段は裏方として動くことが多い総務課にとって、館内見学は皆さまと直接関わることのできる貴重な機会です。

見学の現場では「数多くのボランティアが図書製作に尽力していることに感動した」「遠い世界の話だと思っていたが、身近な存在だと感じかたが変わった」「見えない・見えにくいことで困っているかたがいたらぜひ紹介したい」といった嬉しい感想をいただくこともあり、私たちの大きな励みになっています。

館内見学は当館事業や視覚障害福祉に対する理解を深めていただくための大切な入り口です。当館だけでなく視覚障害者への支援の輪が広がるよう、私たちは今日も心を込めて皆さまをご案内しています。



見学者へ配布している事業パンフレット、創作者・本間一夫を紹介するマンガなど

# ご存知ですか?

## こんな商品

わくわく用具ショップより、どなたが使っても便利な新商品をご紹介します。ウェブショップからもお買いものができます。ぜひご利用ください。

お問い合わせ 03-3209-0751

URL <https://yougu.nittento.or.jp/>

## 新 酒屋のハンドクリーム

[大きさ] (キャップ直径) 28 × (高さ) 130mm

[重さ] 50g

[販売元] くにまれ 国稀酒造株式会社

[価格] 820 円 (税込み)



日本点字図書館創立者本間一夫の生家、国稀酒造のオリジナルハンドクリームです。原料を従来の特別純米酒から「純米ぎんふう吟風国稀」へ変更され、リニューアルして再登場しました。

北海道増毛町の暑寒別岳の伏流水と純米吟風国稀を使用しており、ソフトクリームのように柔らかくふんわりと肌に馴染みます。なめらかで伸びが良く、ほのかに上質なお酒の香りがする珍しいハンドクリームです。しっとりとした使い心地で乾燥しや

すい季節の手肌ケアにもおすすめです。

蔵元売店限定の商品を当館でお求めいただけます。館長も愛用している一品です。

### ※純米 吟風国稀

北海道酒造好適米「吟風」を 100% 使用し、南部杜氏の伝統の技で醸した一品。米の風味の良さを引き出したふくよかな味わいと、キレの良いのど越しを併せ持つ北海道産純米酒です。

## 第24回本間一夫記念日本点字図書館チャリティコンサート ベートーヴェンピアノソナタ～名曲にふれるひととき～

今年のチャリティコンサートは、ピアニストの草<sup>くさ</sup>冬香<sup>ふゆか</sup>さんをお迎えし開催いたします。故田中会長が好んで聴いていたベートーヴェンの楽曲の中から、「悲愴」「月光」「熱情」の三大ソナタに加え、清らかな祈りを表現した第31番をお届けします。美しく豊かな音の世界を、ぜひ会場でご体感ください。

皆様のご来場を心よりお待ちしております。



〔出演〕 草 冬香

〔日時〕 2026年12月12日（土）14時開演

〔会場〕 練馬文化センター 小ホール

※例年と会場が異なりますのでご注意ください。

〔料金〕 4,000円（全席自由）

お申込み・お問合せ

総務課 電話 03-3209-0241（代表）

### 【訂正とお詫び】

前号の記事に誤りがありました。訂正してお詫び申し上げます。

|        |       |             |               |
|--------|-------|-------------|---------------|
| 10 ページ | 2 行目  | (誤) 徳川無声    | (正) 徳川夢声      |
|        | 16 行目 | (誤) 医科芸術クラブ | (正) 日本医家芸術クラブ |
|        | 17 行目 | (誤) 『医科芸術』  | (正) 『医家芸術』    |

### にってんフォーラム〈第140号〉 2026 夏

発行 2026年7月25日〈年4回発行〉

発行人 長岡英司

編集人 立花明彦

発行所 社会福祉法人日本点字図書館

〒169-8586 東京都新宿区高田馬場1-23-4

電話03-3209-0241（代） FAX03-3204-5641

URL <https://www.nittento.or.jp/>

\*本誌の記事を撮影したり光学的に読み取ったりして、SNS等で発信、ウェブサイトへ転載することを固くお断りします。

ワクワク! / ドキドキ!



あなたと映画を観たい。

映画みていて!

「スマホで聞く音声ガイド」



NPO メディア・アクセス・サポートセンター

〒106-0041

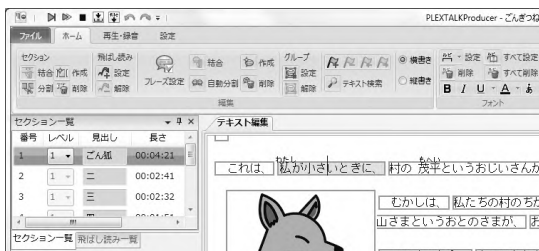
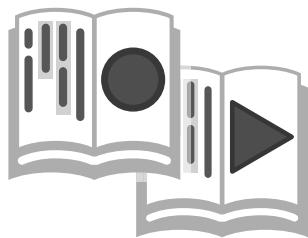
東京都港区麻布台2-3-5 ノアビル1階

MASC

検索



# 音声 / テキスト / マルチメディア DAISY 製作ツール



## PLEXTALK Producer

### で作れる 新しい DAISY のカタチ

#### 音声DAISY … 録音図書の標準方式

- ⊗ テキスト文書から音声合成で図書が作れます
- ⊗ CD 書き込み機能で、直ぐに貸し出しできます

#### テキストDAISY … 音声のない DAISY

- ⊗ データ容量が小さく、受け渡し時間が短縮できます
- ⊗ ルビ振りにも対応し、正しい読みも担保できます

#### マルチメディアDAISY … 音声とテキストのマルチメディア

- ⊗ ディスレクシアなど合理的配慮の利用対象者が広がります
- ⊗ 既存の音声を使ってマルチメディア化もできます

90 日間無料操作体験版は [www.plextalk.com](http://www.plextalk.com) からダウンロードできます

|         |                                                            |
|---------|------------------------------------------------------------|
| サポート OS | Windows11、Windows10以降 ※ 各 OS は日本語のみサポート ※ARM版Windowsは非サポート |
| プロセッサ   | Intel Core i3 以上推奨                                         |
| メモリ     | 4GB 以上推奨                                                   |

レイアウトツール 文字化ツール (OCR) でデータ取り込みが楽々 !

**PLEXTALK Producer** 簡単取り込みセット ¥88,000 (税込)

PLEXTALKProducer 単体 ¥49,500 (税込) 簡単取り込みオプション ¥38,500 (税込)

販売元：

**シナノケンシ株式会社**

〒386-0498  
長野県上田市上丸子 1078

製品情報、ご注文はホームページ：

[www.plextalk.com](http://www.plextalk.com)

※ Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。Intel Coreは米国および/またはその他の国におけるIntel Corporationの商標です。

※ 記載の情報は2025年9月のものです。機能および外観デザインなどは、性能向上その他の理由で、予告なく変更することがあります。PLEXTALK、PLEXTALKロゴはシナノケンシ株式会社の商標です。